

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年12月8日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：吉野長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから12月8日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○吉野総務課長 報道官の吉野です。

原子力規制委員会の広報日程について御説明いたします。

まず、12月13日、2番目の案件ですけれども、第53回原子力規制委員会臨時会が開催されます。

議題は、原子力規制委員会と中国電力株式会社経営層による意見交換です。

今年6月に中国電力の経営者層の交代があったことを受けまして意見交換を行うものでございます。中国電力からは中川賢剛代表取締役社長執行役員、北野立夫代表取締役副社長執行役員電源事業本部長、長谷川千晃常務執行役員電源事業本部島根原子力本部長が出席されます。

当日は、中川社長から経営トップとしての決意や方針についてお話を伺った上で意見交換を行うことが予定されております。

次に、審査会合、会見の予定です。

12月12日、3番目の案件ですが、令和5年度原子力規制人材育成事業に係る意見交換会が開催されます。対応は全委員となっております。

原子力規制人材育成事業は、国内の大学や高等専門学校などで原子力の安全に関わる人材を育成する事業を支援しているものでございます。事業開始から一定期間が経過しておりますので、補助を受けていらっしゃいます大学から関係者に来ていただいて、今後の事業の在り方について意見交換を実施するものでございます。参加大学は、東京都市大学、大阪大学、東北大学、東京工業大学、静岡大学が予定されております。

12月13日、4番目の案件、第508回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合が開催されます。対応は杉山委員です。

議題は、日本原子力研究開発機構大洗研究所の試験研究用等原子炉施設（高速実験炉原子炉施設（常陽））保安規定変更認可申請についてです。

常陽の保安規定について、10月23日に引き続きルースパーツへの対応について説明を受けるほか、長期施設管理方針の審査の進め方について議論が行われる予定となっております。

12月14日木曜日、第29回特定兼用キャスクの設計の型式証明等に係る審査会合が開催されます。対応は金城長官官房審議官です。

議題1では、日立造船株式会社特定兼用キャスクの設計の型式証明について審議がされます。これは、7月29日に申請が出ておりました、前回8月24日に引き続き2回目の審査を行うものとなっております。

議題の2は、GNS特定兼用キャスクの設計の型式証明について審議が行われます。

GNS社から出ている特定兼用キャスクは、2021年3月に申請を受けておりますが、今回は、その後の進捗を確認して審査の進め方を議論するという予定となっております。

次に、第1211回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合がございます。対応は杉山委員です。

議題は、関西電力株式会社高浜発電所3号炉及び4号炉の運転期間延長認可申請等に係る審査についてです。

令和5年4月25日に申請を受けておりました、前回10月10日に引き続き審査を行うものでございます。

委員の現地視察が幾つか入っております。

2つ目の案件、12月11日に山中委員、伴委員が東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所へ現地調査に行かれます。先日、12月6日の定例会で決まりました御視察でございます、現在、11日で調整を行っております。

発電所内の会議の様子や核物質防護措置の状況を調査するほか、職員との意見交換を行いまして状況の把握を行うことが予定されております。

12月14日及び15日、2日間にかけて、石渡委員が日本原子力発電株式会社敦賀発電所2号炉の現地視察を行います。

K断層の活動性・連続性の審査に関連いたしまして、D-1トレンチの露頭のほか、ボーリングコアの確認を行うことが予定されております。

4番目の案件、12月15日に、田中委員が一般財団法人電力中央研究所我孫子地区の現地視察を行います。

1F（福島第一原子力発電所）の廃炉作業に関連いたしまして、電力中央研究所で行われている多核種除去設備スラリーの低温固化試験を視察されるものでございます。

その他の案件です。

12月12日に、マグウッドOECD/NEA（経済協力開発機構／原子力機関）事務局長が、山中委員長及び伴委員を表敬訪問されます。

マグウッド氏は、次に書いてあります「国特有の安全文化フォーラム」への御出席のために来日されているものでございます。

2番目の案件「国特有の安全文化フォーラム（CSSCF）」が、12月14日、15日で2日間にわたって東京国際フォーラムで開催されます。これはOECD/NEAと世界原子力発電事業者協会との共催で行われるものでございます。

このフォーラムは、各国の文化が、原子力の安全文化、原子力施設の安全な運用にどのような影響を及ぼしているかについて議論するもので、これまでスウェーデン、フィンランド、カナダで実施されてきております。フォーラムでは、原子力事業者、規制庁を含め規制機関から職員や管理的立場にある者が参加いたしましてロールプレイが行われて、円滑な対話を実施できているかということの検証などが行われる予定となっております。

ロールプレイなどは非公開で行われますが、クロージングセッションは取材可能となっております。また、この取組を通して確認された日本の特性と、その特性が、原子力安全に与えている影響などは、報告書としてまとめられ、公表される予定となっております。

本日は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—